

[成果情報名] 省加温施設栽培カンキツ「せとか」の大玉果生産のための摘果指標

[要約] 省加温施設栽培「せとか」において収穫時の階級がM級から3L級までの果実は満開60日後及び80日後の横径から精度よく予測することができ、摘果指標として利用できる。

[キーワード] カンキツ、せとか、摘果、横径

[担当] 長崎果樹試・生産技術科

[連絡先] 0957-55-8740 電子メール s26700@pref.nagasaki.lg.jp

[区分] 果樹

[分類] 普及

[背景・ねらい]

施設栽培の「せとか」は外観が優れ、果実品質も良好なことから高価格で販売されているが、小果になるほど価格が安く、収益性が劣るため、大果生産が求められている。大果を生産するためには早期の摘果が必要なことから、その時期の摘果の目安となる指標を作成した。

[成果の内容・特徴]

1. 幼果期にあたる満開60日後及び80日後の横径を階級別に区分するとほぼ正規分布を示している(図1)。
2. 幼果期の果径が大きいほど収穫期に高い階級になる。また果径が大きいほど標準偏差も大きい傾向にある(表1)。
3. 幼果期の平均横径と標準偏差から算出した指標をもとに収穫期の階級を予測した。その場合の予測適合率は、M級から3L級までの果実は高いが、4L級果実は年により低くなることもある(表2)。

[成果の活用面・留意点]

1. 省加温栽培で、着果量がおおむね12果/m³での結果であり、温度、水管理や着果量の多少で適合率が変化する場合がある。

[具体的データ]

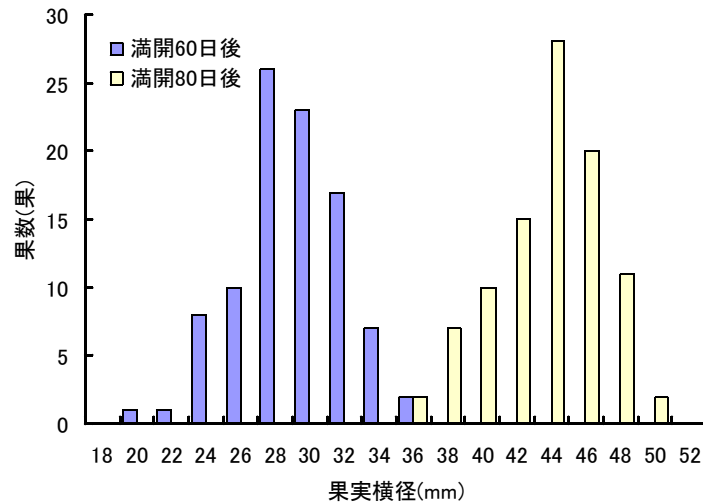


図1 施設栽培「せとか」の幼果期の果実横径の分布

表1 施設栽培「せとか」の収穫時階級別の幼果期の果径平均値と標準偏差

階級 ²	横 径				縦 径			
	満開60日後		満開80日後		満開60日後		満開80日後	
	平均 (mm)	標準偏差	平均 (mm)	標準偏差	平均 (mm)	標準偏差	平均 (mm)	標準偏差
M	22.5	1.7	34.2	1.7	23.7	1.9	35.4	2.3
L	25.0	2.5	38.0	3.1	26.1	2.5	37.8	3.5
2 L	28.2	2.9	42.7	3.0	28.3	2.8	40.8	2.8
3 L	30.1	3.6	45.5	3.6	30.2	3.8	43.7	3.7
4 L	32.7	3.8	49.4	3.9	32.5	3.8	46.1	3.7
5 L	33.4	4.0	50.1	4.1	33.2	3.8	46.6	3.7

² 横径 (mm) M:70~75 L:75~80 2L:80~88 3L:88~95 4L:95~102 5L:102~107

表2 施設栽培「せとか」の幼果期の横径で収穫期の階級を予測した場合の適合率²

階級	満開60日後			満開80日後	
	横径 (mm)	2006年 (%)	2007年 (%)	横径 (mm)	2007年 (%)
M	20.8~	100.0	99.5	32.5~	100.0
L	22.5~	100.0	98.4	34.9~	98.9
2 L	25.3~	92.4	90.5	39.7~	89.3
3 L	26.5~	77.9	89.2	41.9~	91.9
4 L	28.9~	44.4	86.7	45.5~	86.7

² 当該階級の果実が幼果期に指示された横径以上である割合

[その他]

研究課題名：機能性に富む中晩生カンキツの高品質果安定生産技術の確立

予算区分：県単

研究期間：2004~2008年度

研究担当者：林田誠剛